向井千秋さん
副学長に就任

女性初の宇宙飛行士として有名な向井千秋（むかいちあき）氏が、2015年4月1日付で本学の副学長に就任された。今回、副学長に就任された感想や意気込み、宇宙での経験、本学に関して取材をさせていただいた。

Q. 副学長に就任された経緯を教えてください。

A. 副学長の森口泰孝（もりぐちやすたか）先生が以前科学技術庁（現・文部科学省）に勤められていて、私が宇宙飛行士をしていた時にお会いしたのが始まりです。その後、難しいことを易しく、わかりやすく教えること、特に子供から研究者まで面白いと思えるようにするには、どのような工夫をすれば良いかに興味を持ち、秋山（あきやま）仁（じん）先生の数学体験館を見に行きました。その時教育についての話を学長の藤嶋昭（ふじしまあきら）先生方とお話して、宇宙の面白さも同じように皆さんに伝えられないかと考えていたので、どうすればそれぞれの専門内容の面白さを伝えられるか、人にものを教えるにはどうしたら良いかなどについて話し合いました。話が進む中で特任教授、その後、副学長に就任させていただく流れになりました。

Q. 副学長に就任された感想を教えてください。

A. 教育にも研究にも熱心ですごく熱意を持っていらっしゃる学長、本学を世界の理科大にしたいと目を輝かせていらっしゃる理事長や他の副学長と一緒に仕事ができて楽しいです。そして、私が副学長としてやることは国際化推進と女性活躍推進です。いわゆる「リケジョ」の学生や研究者を推進するだけではなく、将来働く人が女性でも男性でも楽しく一緒に良いものを作っていける基盤を理科大でさらに築いていけたら良いと思っています。国際化推進では、国際協力なしではできない宇宙開発の経験を生かしていけたらと思います。

Q. 国際化推進、女性活躍推進ということで、具体的にどのようなことに取り組みたいですか。

A. 国際的な面で本学のあるべき姿として今挙げられている「Ｇｏ ｔｏ ＵＳＡ」などのプログラムを進めていきたいと思っています。世界の学生や研究者が本学に来て、本学の人が世界に行くエクスチェンジプログラムが進んでほしいです。理科大という名前がＭＩＴと同じように「ＲＩＫＡＤＡＩ」が世界に通じるような時代になれば良いと思います。そのためには学生が母校を良くしようと思い、世界に理科大という名前が届くように頑張ってほしいと思っています。是非、理科大の名を世界に轟かせてください。女性活躍推進の面では、女性の社会進出や男女共同参画を進めるため、女性も男性も協力してほしいです。これらは教職員だけでできることではありません。一番は学生です。国際化推進の面でも、女性活躍推進の面でも各キャンパスに学生主体のチームを作り、教職員のコミュニティや、そこで行われている会議などに学生の声を届けてほしいと考えています。学生が声を上げてくれることを待っています。

Q. 女性初の宇宙飛行士ということで、男性が多い環境だったと思いますがどうでしたか。

A. 仕事に関して言うと、仕事ができる知識や技術、意気込みがあるかどうかだと思うので、男性が多くても女性が多くても、関係ないと思います。宇宙飛行士になる前、医師として働いていた際も同じ考えでした。最初からその考えを持っていた訳ではなく、大学の頃に「男のくせに」、「女のくせに」という言葉を使っている自分に気が付きました。例えば、大学のスキー部に所属していた時に、長距離走で私より遅い男性に「男のくせに遅い」とか、飲み会で私より先に酔ってしまった男性に「男のくせに弱い」と言っていました。自分の中で勝手に男性の方が女性より早く走る、お酒が強いと思っているからそういうことを言っていたのでしょう。男性で足が遅くても、お酒が弱くても、甘いものが好きでも良いはずです。そして、医師になった頃、注射をする際にお母さんが子供に「男の子だから泣いちゃダメでしょ」と言った時には必ずお母さんに「男だって女だって注射をされれば痛いから泣いても良い。男の子らしくないから泣いているんじゃない、痛いから泣いているんですよ。」と言っていました。そうすると、男性も女性も悲しい時は涙を流して良いし、辛い時には自分だけで背負うのではなく、辛いと言っても良いと思うようになります。男性や女性である前に自分たちは人間だと考えるのです。すると例えば、当時宇宙開発の発展途上国だった日本人がミスをすると、日本人だからアメリカ人やロシア人には劣ると思いがちになってしまいますが、そうではないということが分かります。その場合、勉強不足や技能不足でミスが起きたと考えます。男性や女性は単なる生物学的な区別であって、仕事に関して男性でも女性でも、日本人であれアメリカ人であれ関係ないと思います。そのため、男性の多い環境に不安などはありませんでした。

Q. 宇宙に行って一番感動したことは何ですか。

A. 皆さんは、多分地球の神秘的な風景だと予想していると思います。しかし、実際は地球に帰ってきた時に感動がありました。普通、物が机の上に置いてあることや、上から下へ落下することが重力加速度や万有引力などであることが、当たり前だと思っているのではないでしょうか。しかし、宇宙に行くとそういった風景がないので地球に帰ってきた時に物がまっすぐ落下する、投げると放物線を描くことで本当に重力加速度や万有引力はあるんだと実感し、感動しました。地球上で当たり前に起こっている物理現象が不思議だということがよく分かりました。

Q. 本学学生に是非経験してほしいこと、やってほしいことは何ですか。

A. 学生のうちは何でもチャレンジして失敗することです。学生の時はまだ許されることがたくさんあります。社会に一度出たらそうはいきません。例えば私が医師の時は、患者さんが待っているので欠勤することができませんでした。そう考えると、私たちは1人で生きているのではなく、繋がりがあるから、1人が怠けると社会の歯車が回らなくなってしまうのです。自分の人生は自分で切り拓くものだから、真剣にやっていればたとえ失敗しても必ず次の原動力になるので、恐れずにさまざまなことに挑戦して世界を広げてほしいです。他には、専門分野を絶対持つべきです。その上で、学際的に違うところで連携を上手くやってほしいです。1＋1を2ではなく、3やそれ以上にするような人になってほしいです。私は皆さんを応援しています。

▲副学長に就任された向井千秋（むかいちあき）さん

▼時間とは人類皆に平等なものとよく言うが、確かに私もその通りであると思うし、数少ない人間の平等に与えられたのだとも思う。人に限らず、地球は人間が作った尺度により自転をおおよそ24時間で定義され、他の生物も一日の尺度で行動を支配されているだろう。しかし、別の視点から見れば時間の平等性について違った知見が得られるのではないだろうか。▼例えば、能力の違った人に対して同じだけの仕事量を与えれば、優れた人がより早く仕事を終わらすだろう。同じ内容の仕事に対しかける時間が違うため、早く終えた人には時間ができ次の仕事ができる。要は過ごしている時間の密度が違うのだ。このような密度の違いは形を変えて日常生活のなかでも当てはまる。我々が普段受けている授業では真面目に受けている人と、寝ている人とでは過ごす時間の密度に大きな差が出る。言ってしまえば時間を自ら捨てているのである。数少ない平等という条件を自ら捨て、時間がないと嘆いているのであれば救いようがない。逆に本当の意味で時間のない人は、作業の効率化や、無駄な時間を徹底して無くすことで、時間が生まれるはずだ。このように小さな積み重ねが、豊かな時間を生むのではないだろうか。思い当たる節があるのであれば、このことは即実行に移すべきだろう。今この瞬間こそが、残りの人生の中であなたの一番若い瞬間なのだから、今やらない理由はない。（ａｇ）

筆泉

東京理科大学新聞

【発行所】
東京理科大学新聞会

< 住所 >
〒162-0825
東京都新宿区
神楽坂１丁目３番地
２号館 2515 部室

< 連絡先 >
E-mail
tuspress@gmail.com
HP
http://tuspress.jp

2 受賞者紹介
3 体育局活動紹介
4 理窓会・書籍紹介・坊っちゃん焼き

日本経済新聞のニュースや業界MAPで
効率よく業界・企業研究できる!
さらに、豊富なインターンシップ情報や診断ツール、
Webテスト模試などでみなさんを強力サポート!

キャリタス就活
[career+]
https://job.career-tasu.jp/2017/
キャリタス就活　検索
企画・運営　株式会社ディスコ

インターンシップ　エントリー受付中!

でインターンシップイベントや、就職準備に関する情報を発信中!

国内最大級！ 昨年の来場者5,000名
東京理科大学の先輩もみんな参加したイベント
キャリタス就活フォーラム [career+]
約80社出展予定
インターンシップ＆仕事研究
6.13(土) 11:00▶18:00
東京ビッグサイト［西３ホール］
要参加申込　学年不問　入場無料　服装自由

［出展予定企業］ 今後続々出展予定！ キャリタス就活で速報中!
アルク、アルバック、NTTコムウェア、大塚商会、ケイアイスター不動産、日清食品ホールディングス、日鉄日立システムエンジニアリング、ニトリ、日本電産、日本ユニシス、ニラク、ベルーナ、ホクト、マルイチ産商、マルハニチロ、リログループ、リングアンドリンク、WORKS GROUP【5/18(月)現在】参加申込はQRコードで今すぐ!